

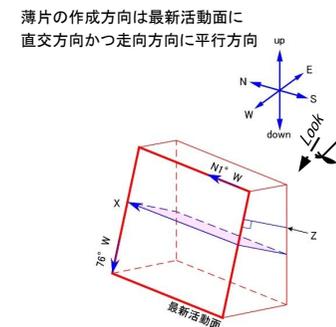
H24-B14-2 深度109.16~109.46m D-1破碎帯 (3/5)

・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度109.16m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

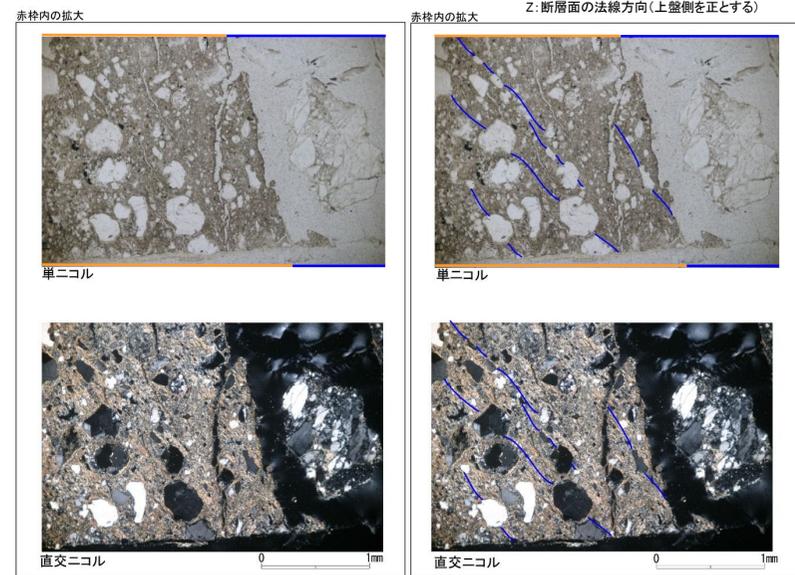
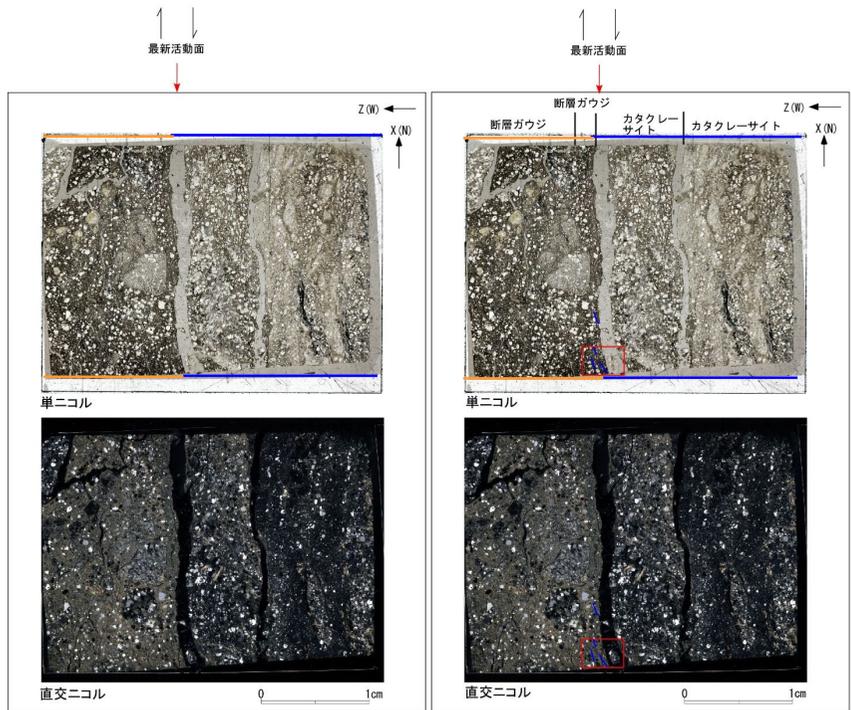
水平断面:最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

条線データなし



走向・傾斜 N1° W76° W
 X: 走向方向(北向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

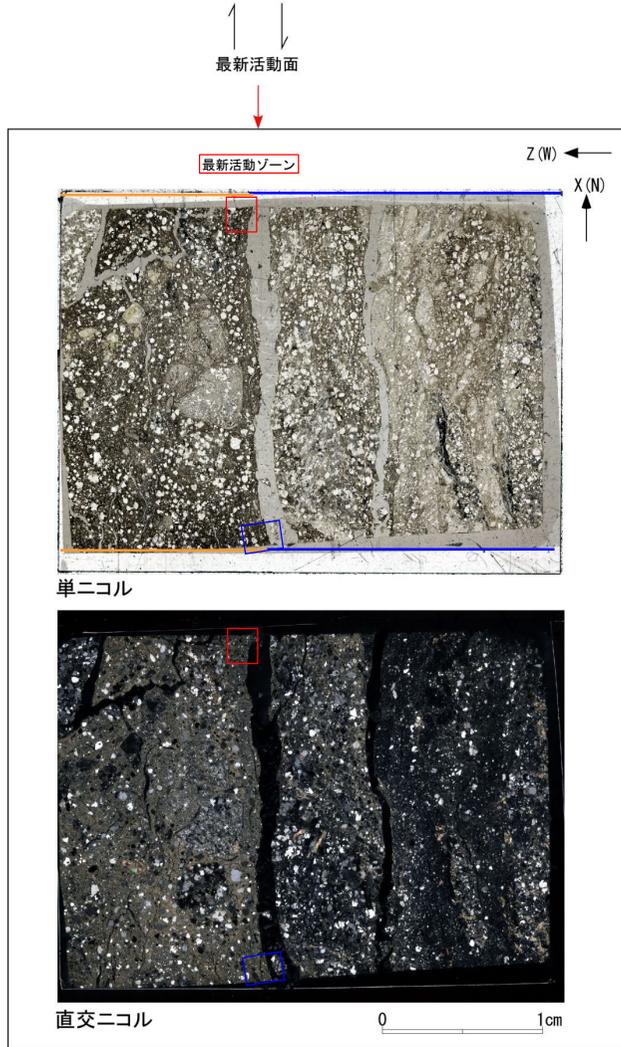
0 10cm ブロックサンプル



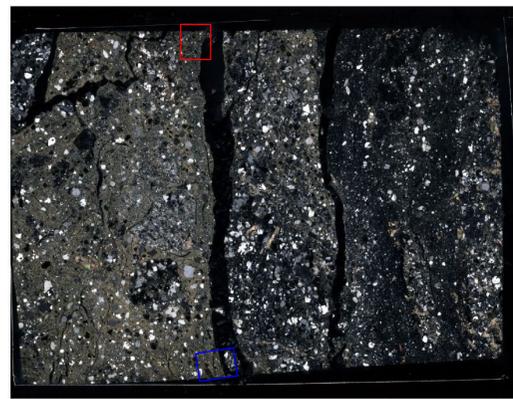
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-B14-2 深度109.16~109.46m D-1破碎帯 (4/5)

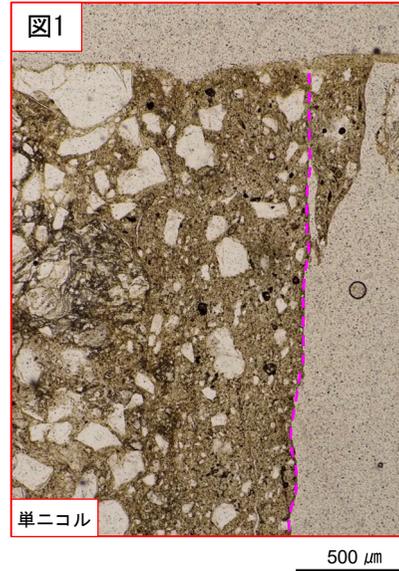
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



単ニコル

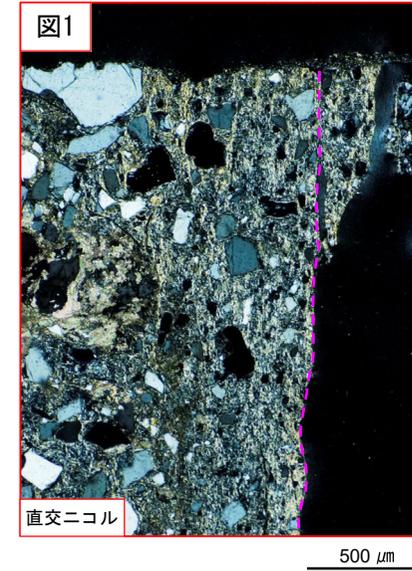


直交ニコル



単ニコル

500 μm



直交ニコル

500 μm

破線は帯状で直線的な範囲を示す。

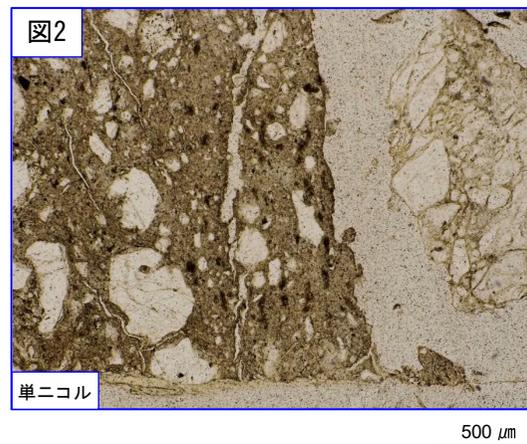


図2

単ニコル

500 μm

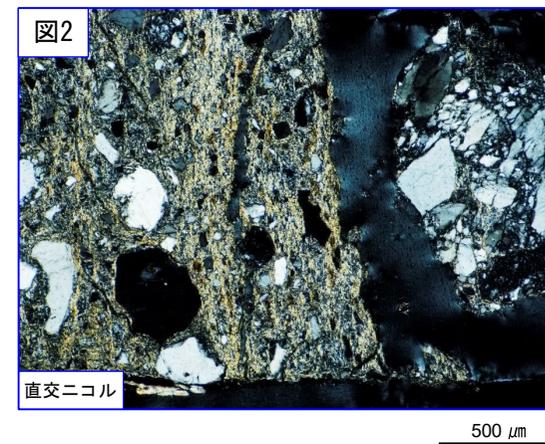


図2

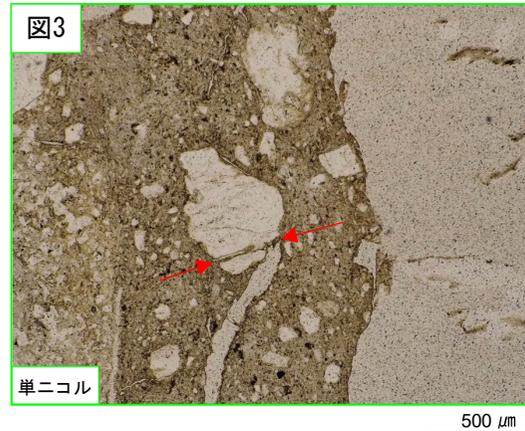
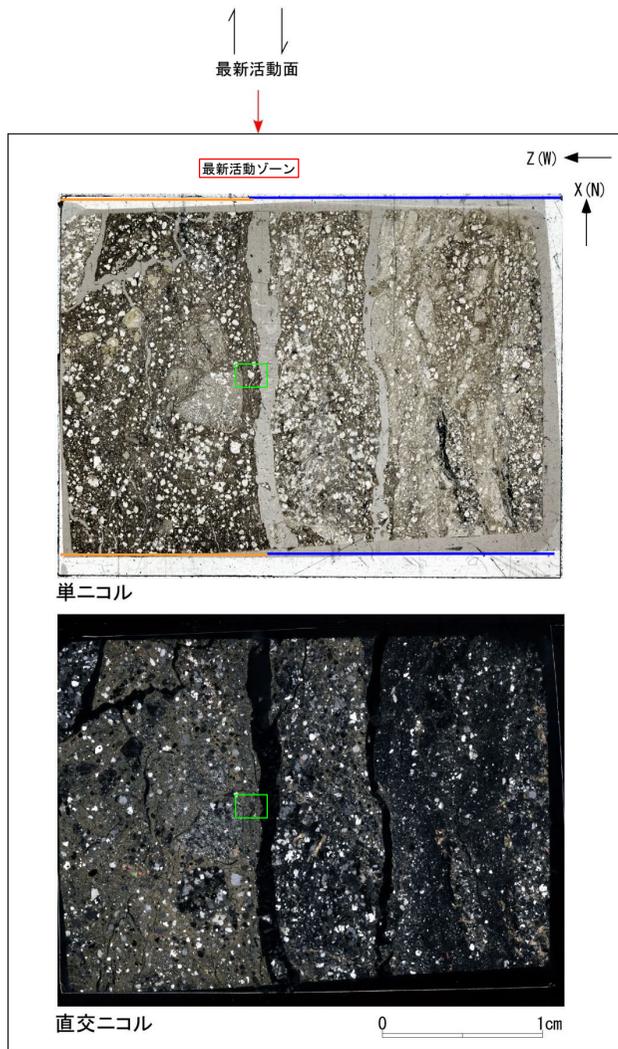
直交ニコル

500 μm

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

H24-B14-2 深度109.16~109.46m D-1破碎帯 (5/5)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

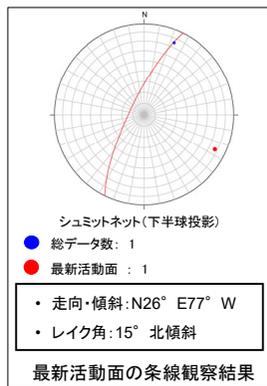
H24-D1-3

余白

H24-D1-3 深度13.94~14.06m H-3d破砕帯 (1/2)

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度14.06m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

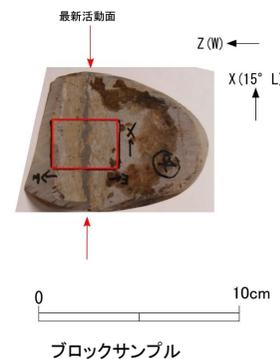


最新活動面

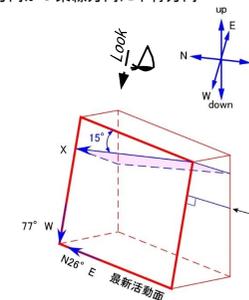
最新活動面の条線観察結果

最新活動面

最新活動ゾーン

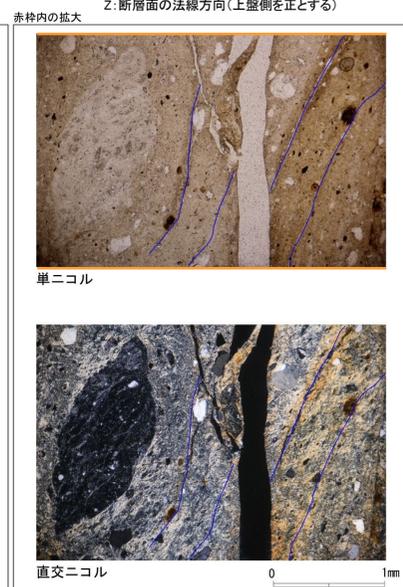
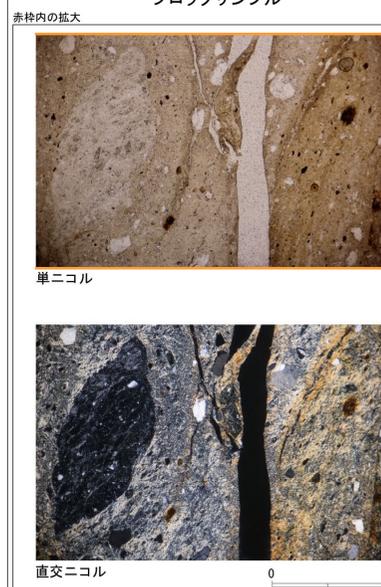
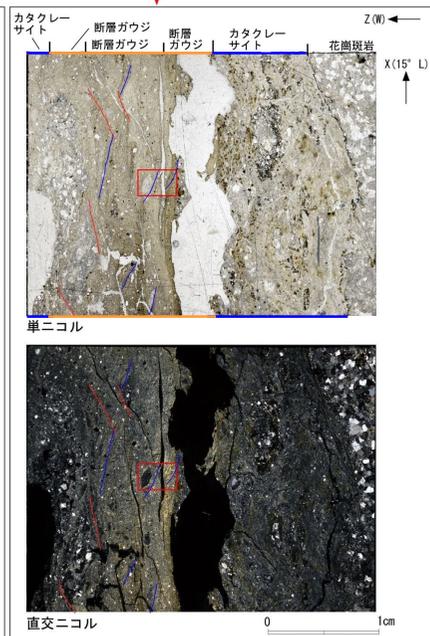
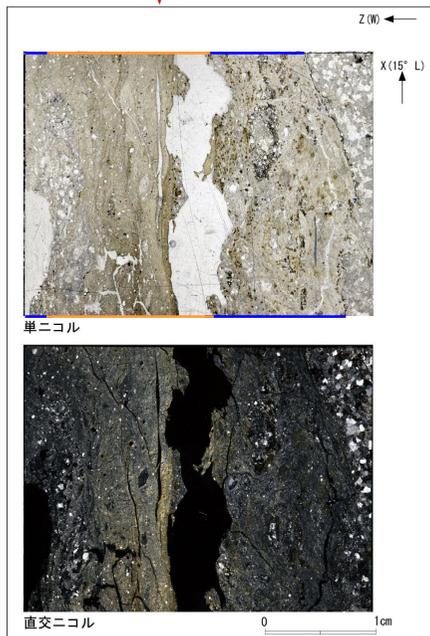


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N26° E77° W
 X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

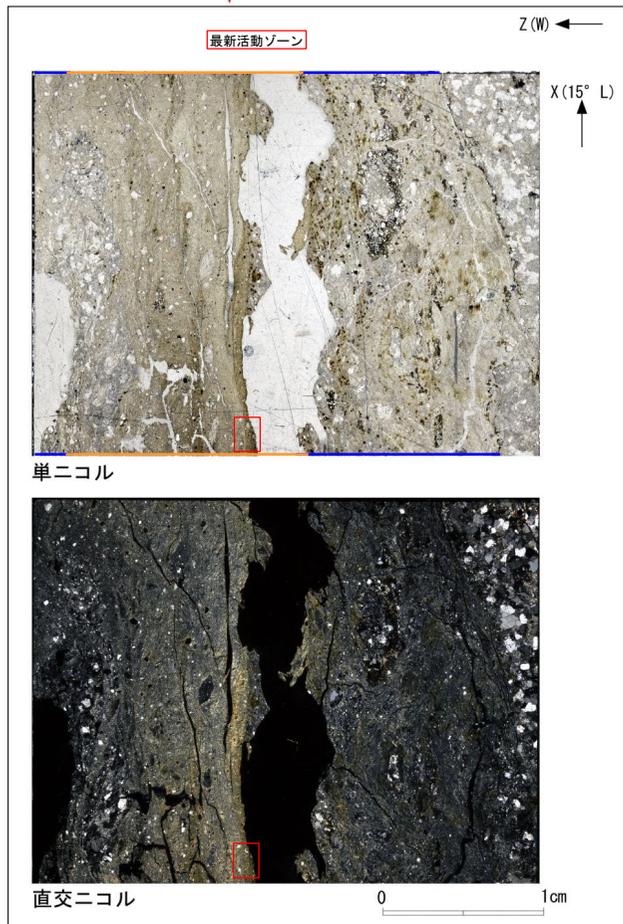


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

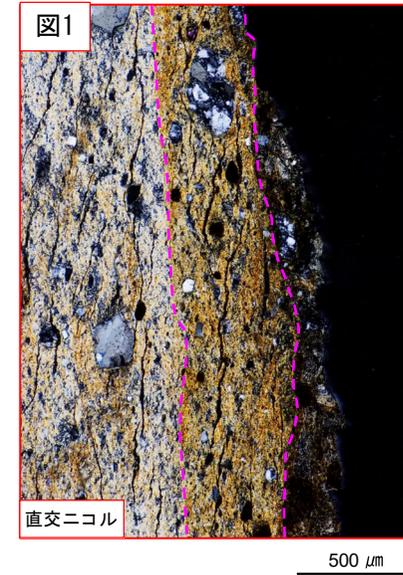
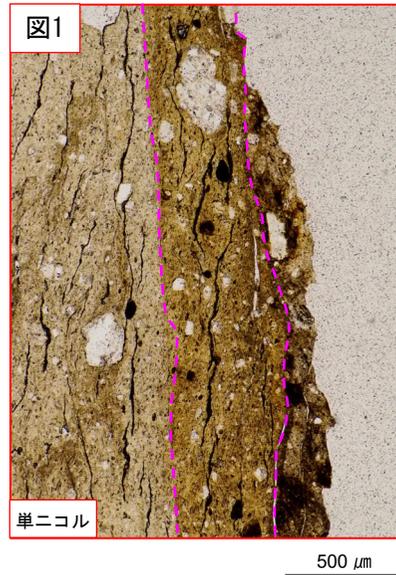
H24-D1-3 深度13.94~14.06m H-3d破碎帯 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図1)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)

最新活動面



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

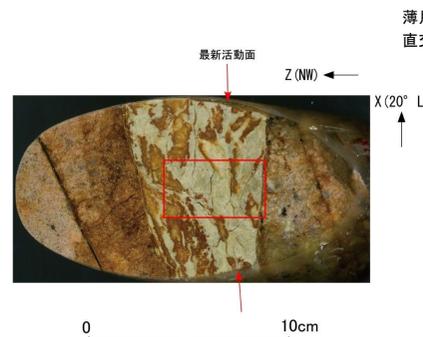
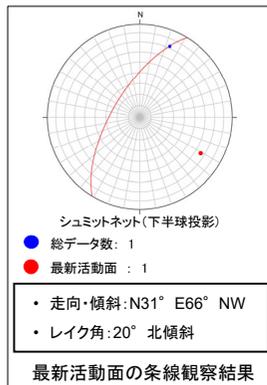


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

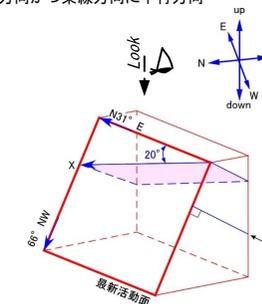
H24-D1-3 深度14.41~14.52m H-4' 破碎帯 (1/2)

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度14.47m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

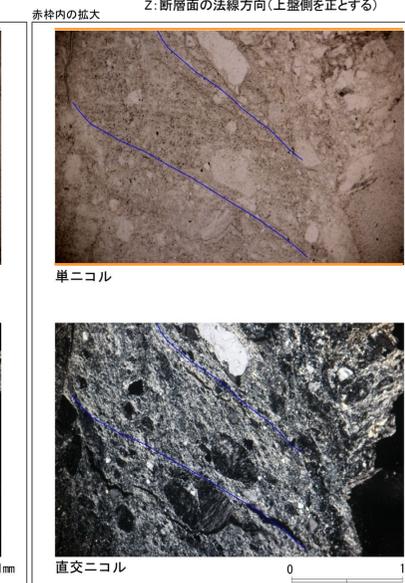
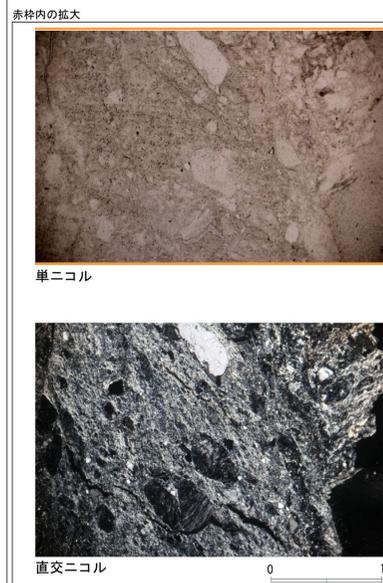
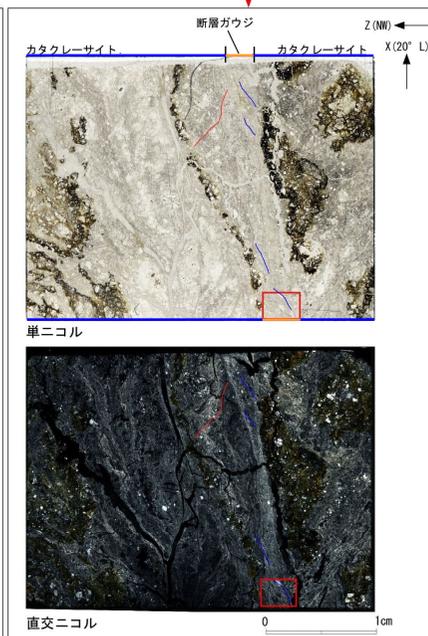
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



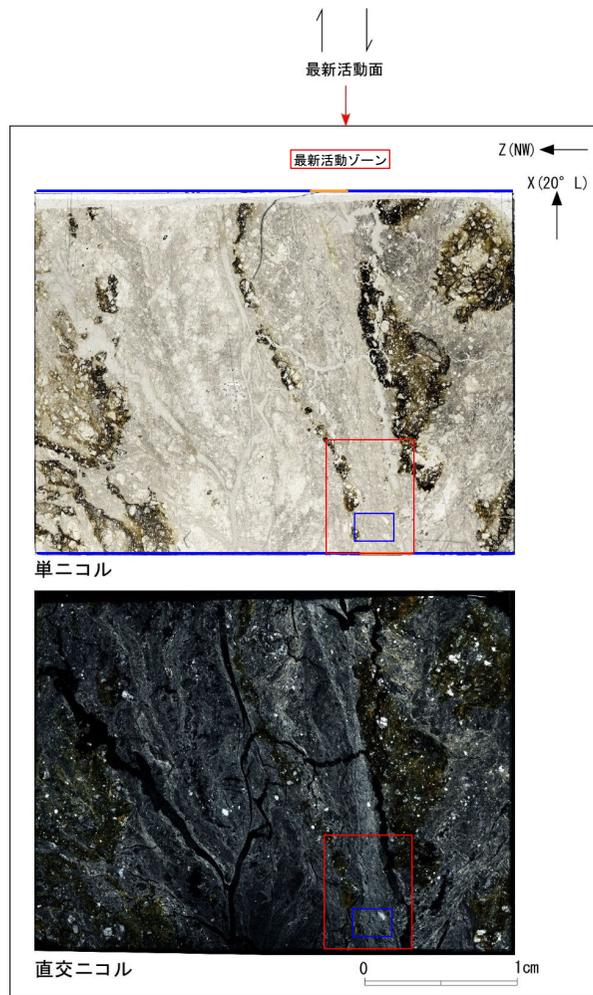
走向・傾斜 N31° E66° NW
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



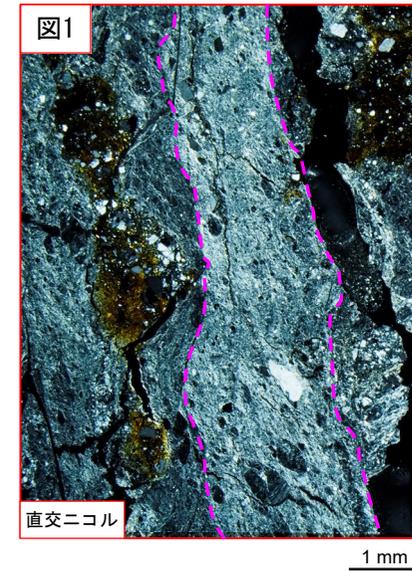
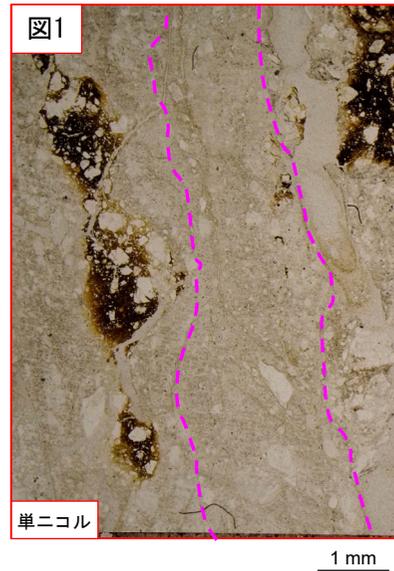
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-D1-3 深度14.41~14.52m H-4' 破碎帯 (2/2)

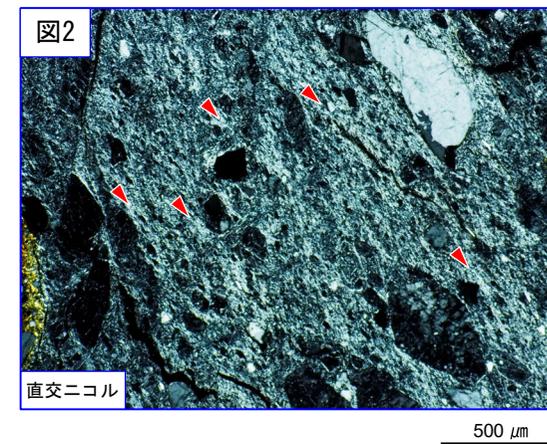
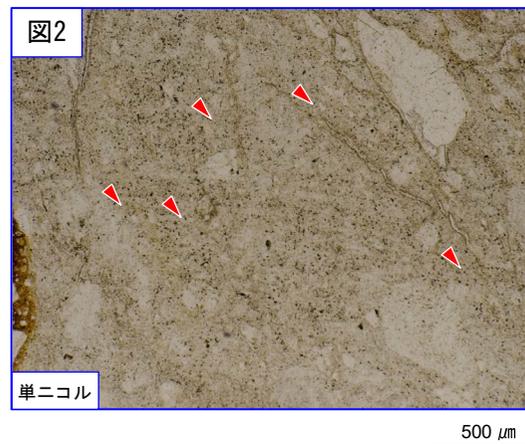
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1, 2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

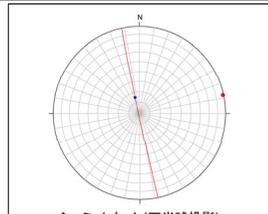


赤矢印は粘土鉱物の配列を示す。

H24-D1-3 深度34.23~34.52m D-1破碎帯 (1/3)

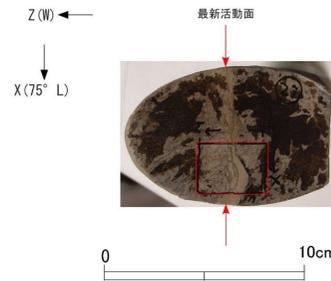
・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度34.40m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。



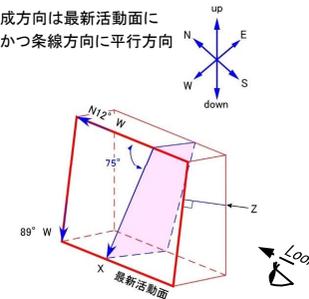
シュミットネット(下半球投影)
 ● 総データ数: 1
 ● 最新活動面: 1
 ・ 走向・傾斜: N12° W89° W
 ・ レイク角: 75° 北傾斜

最新活動面の条線観察結果



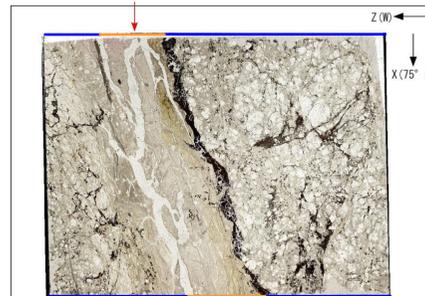
ブロックサンプル

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

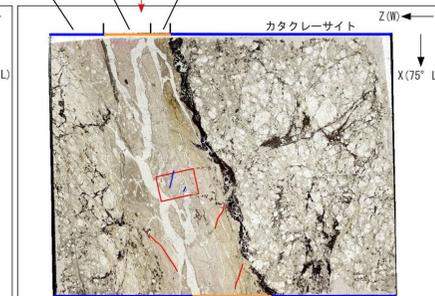


走向・傾斜 N12° W89° W

X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側をとする)



単ニコル



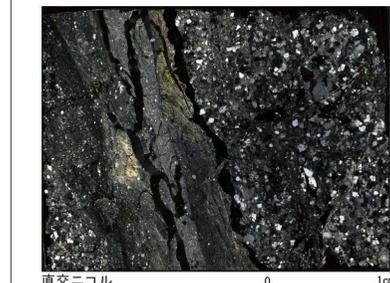
単ニコル



単ニコル



単ニコル



直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル

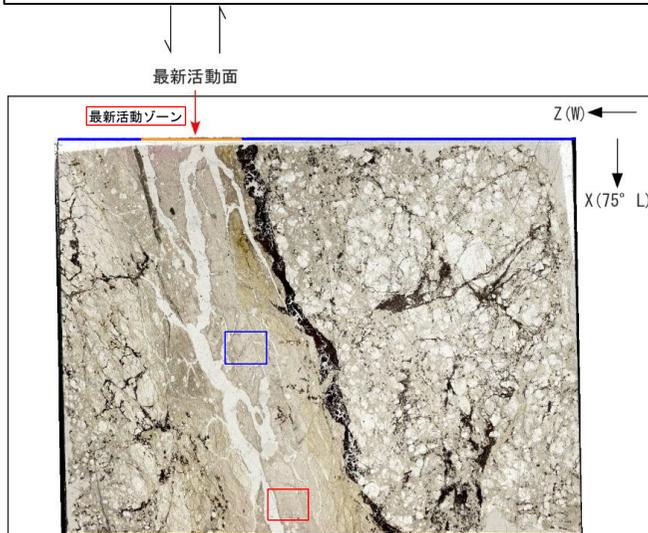


直交ニコル

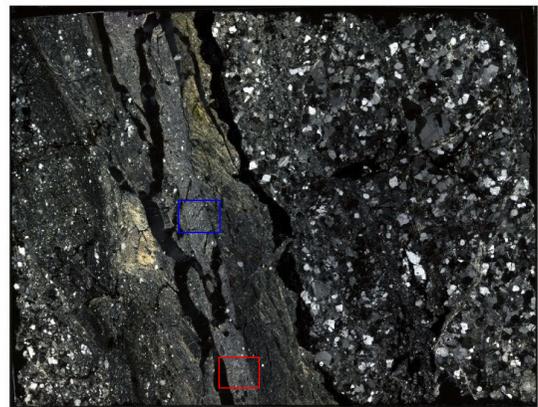
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-D1-3 深度34.23~34.52m D-1破碎帯 (2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

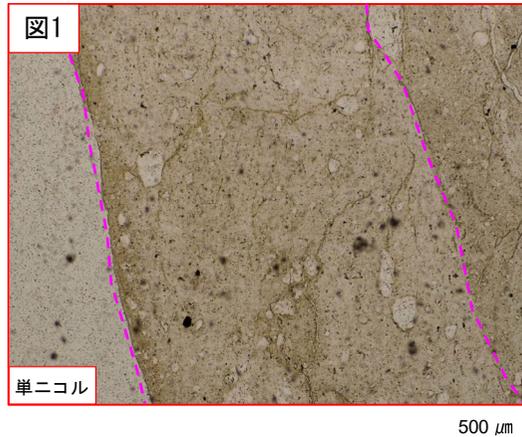


単ニコル



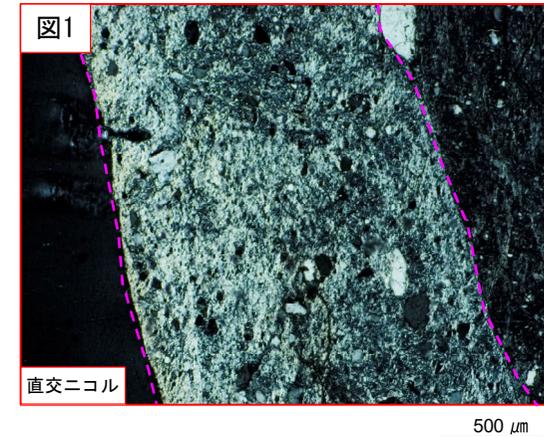
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



単ニコル

破線は帯状で直線的な範囲を示す。

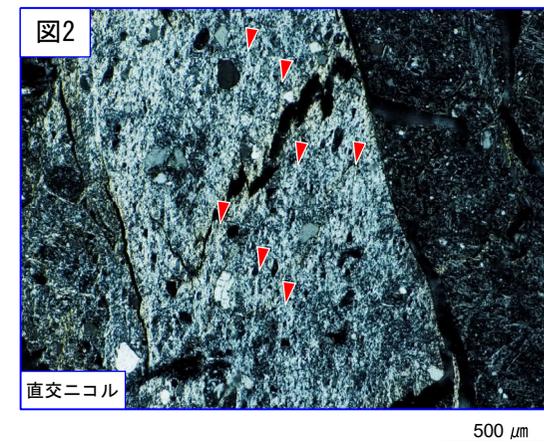


直交ニコル



単ニコル

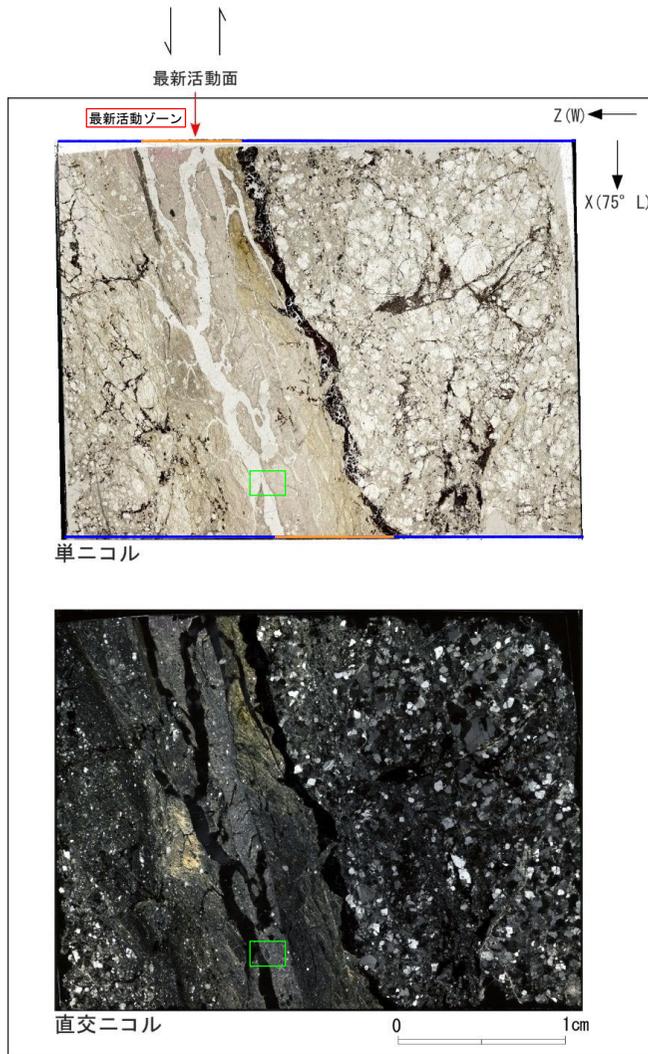
赤矢印は粘土鉱物の配列方向を示す。



直交ニコル

H24-D1-3 深度34.23~34.52m D-1破碎帯 (3/3)

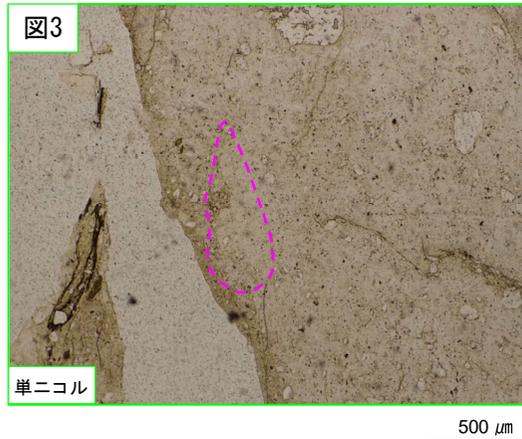
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。(図3)



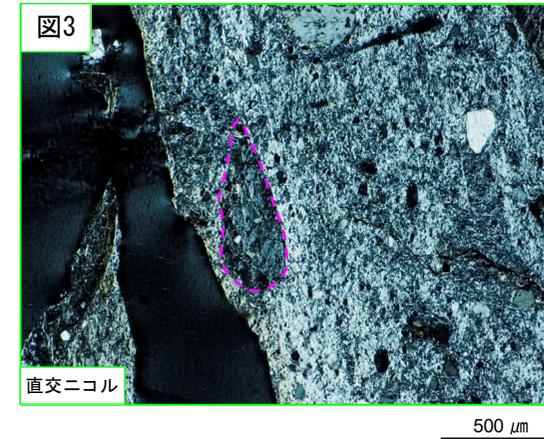
凡例

— 断層ガウジ

— カタクレーサイト



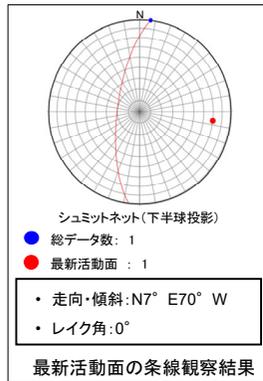
破線はレンズ状に引き延ばされた岩片を示す。



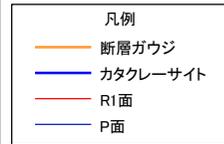
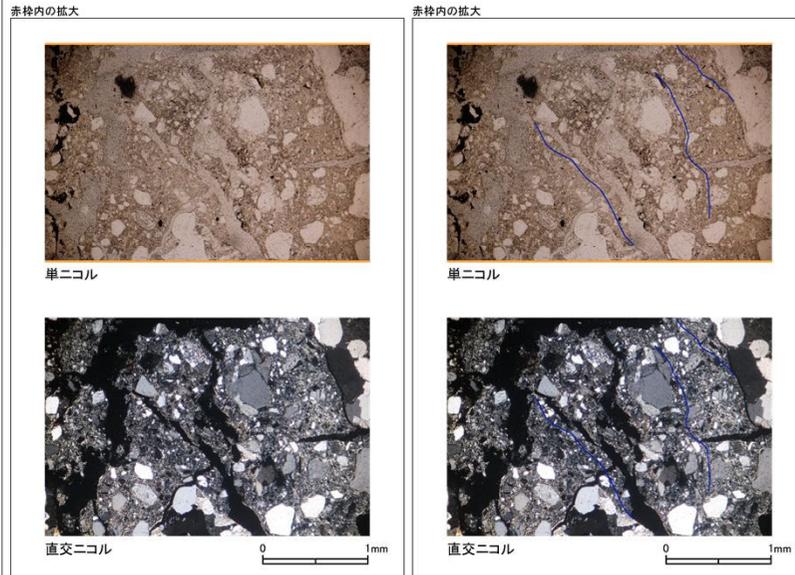
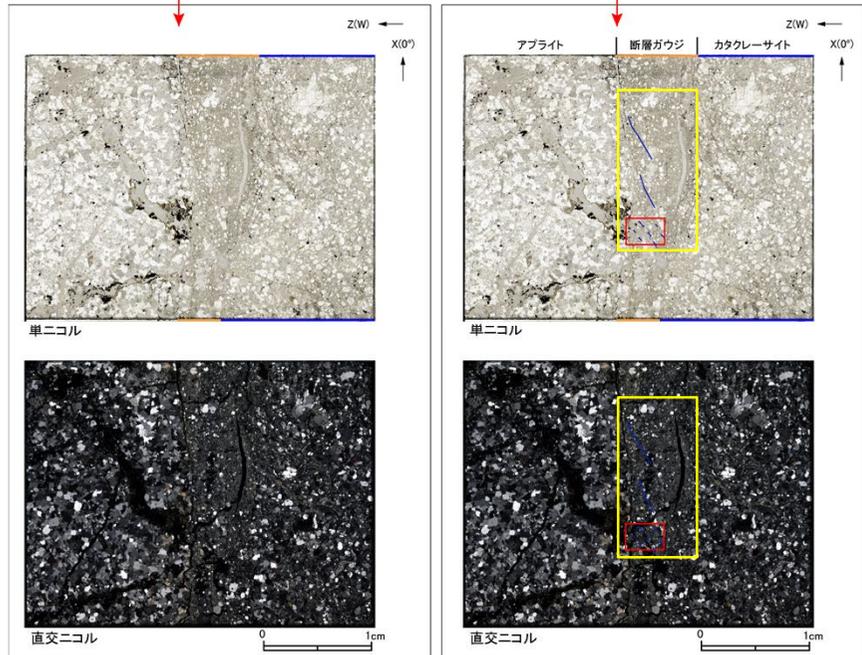
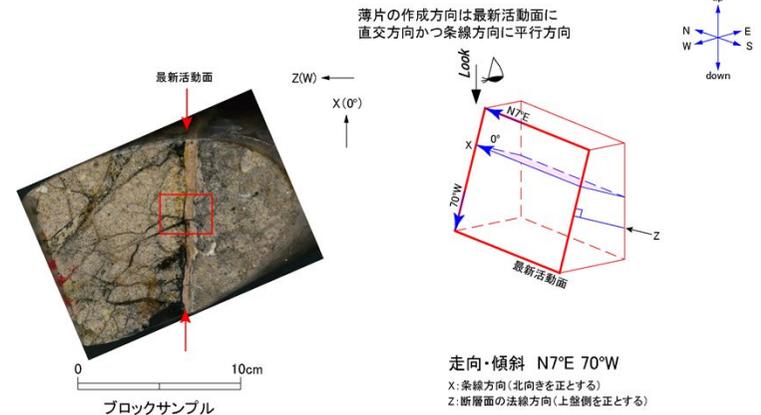
H24-D1-3 深度52.13~52.28m 非モデル化破砕部 (1/2)

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度52.13m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。

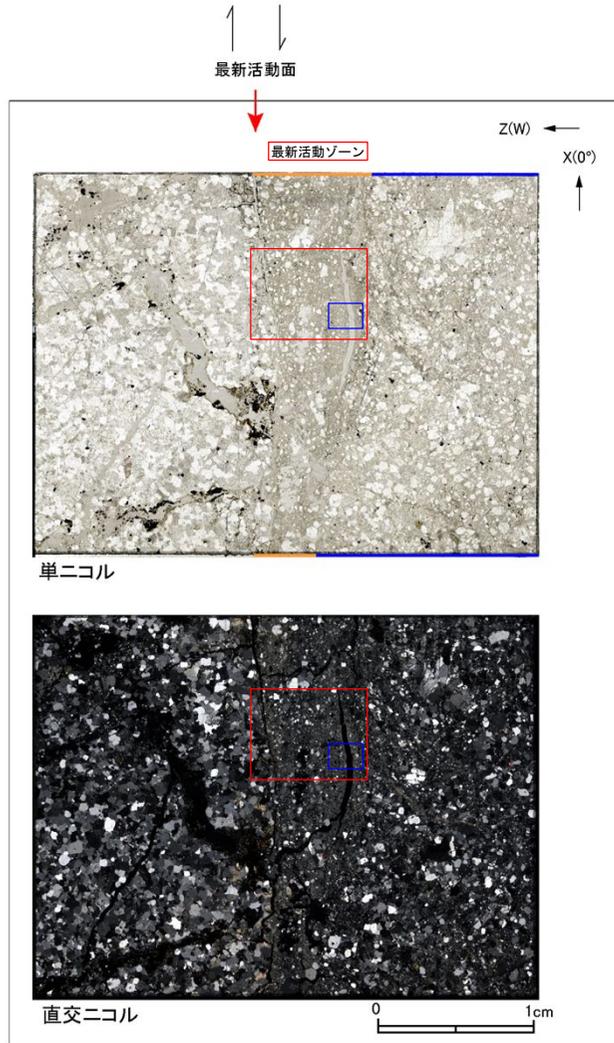


最新活動ゾーン

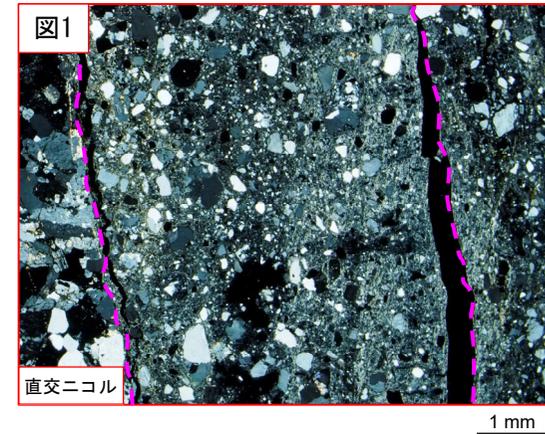
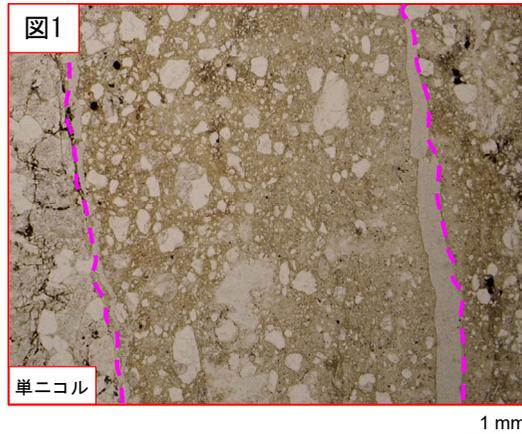


H24-D1-3 深度52.13~52.28m 非モデル化破碎部 (2/2)

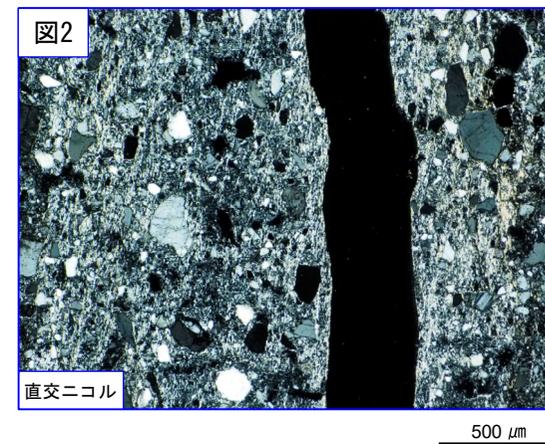
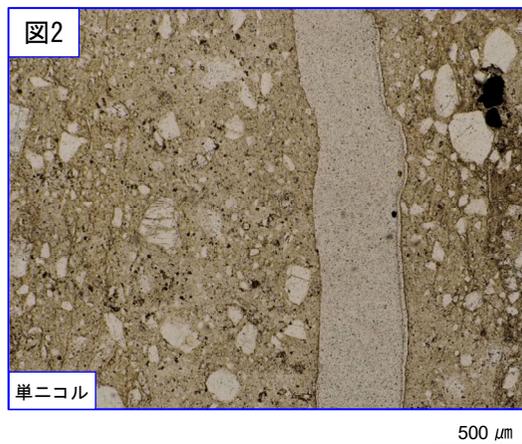
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



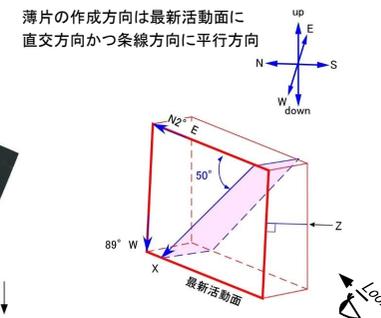
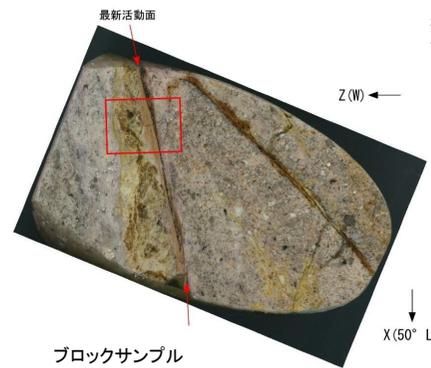
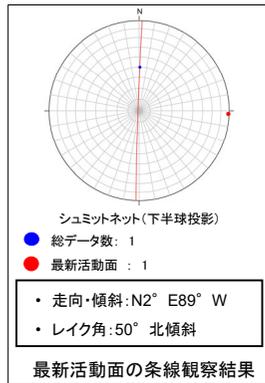
破線は帯状で直線的な範囲を示す。



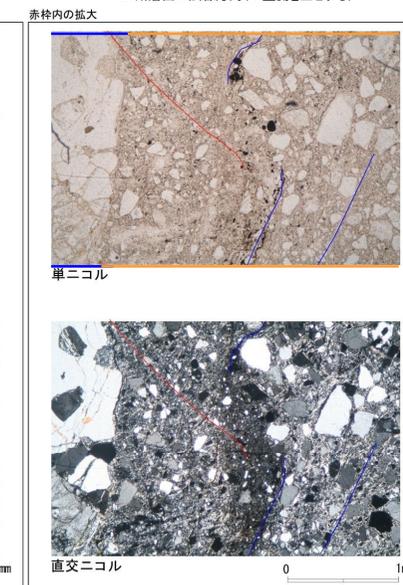
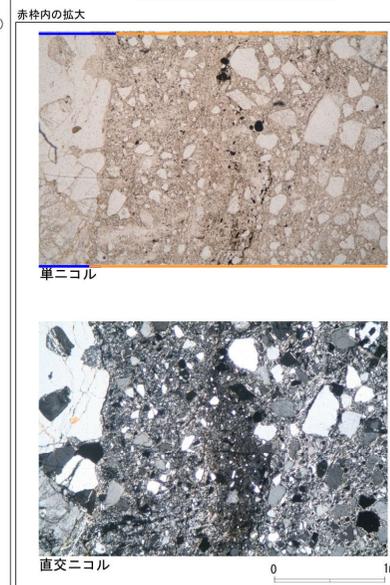
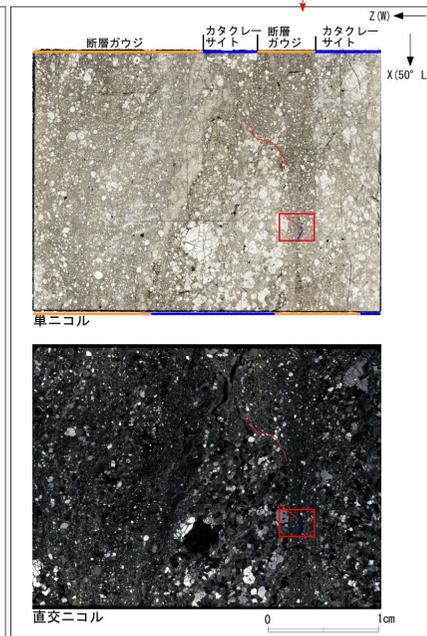
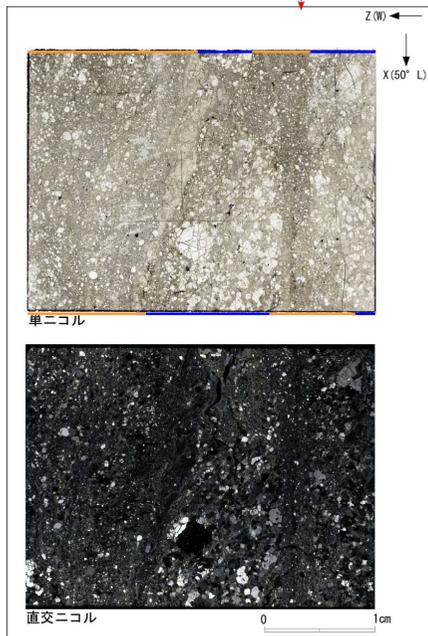
H24-D1-3 深度56.88~57.24m D-35破碎帯 (1/2)

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度57.20m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。



走向・傾斜 N2° E89° W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面